

〔日本語教員養成課程報告〕

2018年度日本語教育実習報告

日本語教員養成課程2018年度日本語教育実習担当 川 口 さち子

平成29年末現在における日本の在留外国人数は、中長期在留者数が223万2,026人、特別永住者数が32万9,822人で、これらを合わせた総数は、256万1,848人となり、前年末に比べて17万9,026人（7.5%）増加して、過去最高となった。

日本語教育の世界では、数年前までは、学部卒業後すぐに日本語教師になることは難しかったが、ここ数年の外国人の増加で日本語学校が増加し、日本語教師が不足しており、学校も早めに教師を採用して育てていきたいと考えるようになってきたため、国内での就職はしやすい状況である。また、教育の様態も多様化し、公立の小・中・高の学校に在籍する外国人子弟の学習支援、外国人看護師・介護士の養成などの需要も増えている。今後も、日本で生活する外国人は増え、日本語教育人材が益々必要になってくるであろう。

このように、これからは日本語教師としての就職のチャンスも増えてくると思われる中で、本学の2018年度の日本語教育実習修了者は、瀬井早苗さんただ1名であった。

例年は数名いるところに、今年度は1名のため、大学での日本語教育実習の授業における教科書分析・教案作成・模擬授業も、例年なら分担できるところ、全部瀬井さん一人で行わざるを得なかった。しかし、瀬井さんは、勤勉で熱意があり、国語科の教育実習も並行して行いつつ、すべて一人でやり遂げたことは、高く評価できる。

大学での模擬授業では、比較できるクラスメートがおらず、経験上不利であったが、幸い実習校に他大学から来ていた実習生がおり、その学生と情報交換したり、お互いの実習授業を見学し合ったりして、自分の授業内容を反省していた。

日本語学校という、実際の日本語教育の現場で実習を行うということは、大変学びが大きい。いろいろな国から来て、日本語を1から勉強している留学生と触れ合うことは大いに勉強になる。聖学院大学にもたくさんの留学生

がいるが、彼らはすでに日本語学校で勉強した上で入学してきているので、日本語がゼロからの学生をどう指導するのかという現場を経験することはきわめて重要である。

瀬井さん自身も、日本語教師としての道を進むことを希望しており、経験を積みばよい教師になれることと思う。

今年度は、実習の修了生は1名であったが、日本語教育概論や日本語教法講義を履修する学生は増えている。これからは国際化する日本社会の現状に目を向け、ぜひ、日本語教育実習までとり終えて、できれば日本語教育の道に進んでほしいと願っている。

そのためにも、この課程を履修している学生たちは、瀬井さんの実習報告を読み、参考にしてほしいと思う。

(2018年12月)